

短期大学におけるダンス授業の実践と意識調査

高橋 佳子

総合教養センター

1. はじめに

日本のダンス教育は様々な変遷をたどってきた¹。中学校におけるダンス教育は平成20年の学習指導要領改訂(2008)に伴い、中学校1・2年生において、「武道」「ダンス」を含むすべての領域を男女必修とする改訂が示された。平成21年より施行、3年の移行期間を経て、平成24年(2012)に完全実施となった。しかし、中村ら(2014)の調査²で報告されたように、男女必修化により教育現場においてはダンスという種目及び教育的価値の理解が不十分で教員の指導力に課題がある状況であった。

この男女必修化に伴い、指導方法やダンスに対する意識についての論文は多く見られる。しかし、男女必修化を受けた学生たちが大学生になった際の指導方法やダンスに対する意識は4年制の教員養成系大学、短期大学でも保育士養成学校においての論文があるだけで、本学の様に教養科目としての受講生のダンスに対する意識について書かれた論文は見当たらない。そこで本研究では、作成したアンケート調査によって、短期大学生が授業におけるダンスをどの様に捉えているかを明らかにし、授業の改善方法や新しい実践方法の知見を得ることを目的とする。

2. 授業概要

科目名: 体育実技 B

開講期: 後学期

科目区分: 共通教育選択科目

履修上限: 1 講義25名、全 2 講義 (30年度履修生 32名)

到達目標は、①自身にあった課題曲を自分で選択し、創作活動に参加することができる②軽いエクササイズやストレッチ、リズムダンスに苦手意識を持たずに楽しみ参加することができるという2つをシラバスに記載し15回の授業を組み立てている。

授業の展開は、1～9回目でリズムダンス3曲を修得させる。10～14回目で課題曲を選択しグループに分かれて創作活動を実施する。15回目で授業内発表会を行い、自身の作品の映像鑑賞を実施する。9回目までの授業ではリズムダンスに苦手意識を持たせない様に個人を重視し、その後10回目から個人を活かしてのグループ創作へと繋げていくという流れを作った。本授業は、2015年から授業評価アンケートを参考に修正を重ねてきた。しかし、今年度ガイダンス時において初めて「完コピがしたい」と言った声が上がった。近年、日本のみならず韓国など海外のダンスグループが人気である。また、YouTubeやSNSなどが普及しているため、すぐに映像や音楽が手に入り、中には振り付け見本動画がある中でこれは当然の声かもしれない。

上記で述べた本学でのダンス授業での狙いと学生が望むダンス授業にズレが生じているのではないかと考え、次年度以降の授業をより充実したものとするため、まずは本学の学生の現状を把握することから始めることにした。そこで、短期大学入学前におけるダンス活動についての調査を5項目、本授業の満足度、意義、活動中で生じた不都合や改善希望についての調査を9項目、今後のダンス活動についての調査を3項目、計17項目のアンケート調査を履修

¹中村恭子「日本のダンス教育の変遷と中学校における男女必修化の課題」(2013) スポーツ社会学研究21 (1) PP.37-51

²中村なおみ、内田匡輔、宮本乙女、中村恭子、布施典子、坂上香苗「中学・高等学校におけるダンス教育推進に向けての調査及び取り組みについての研究」(2014) 笹川スポーツ政策研究 3 (1) PP.230-239

学生に実施した。

3. アンケート結果と考察

2018年12月17日、12月18日の授業時にアンケート用紙を配布し、授業終了時に回収の指示をした。本研究の目的と提出は任意とし、成績の評価には関係しないことをあらかじめ学生に伝達し実施した。

回答者数は28名（履修人数32名）、回収率87.5%であった。

Q1 中学校でダンスの授業で学習した内容を教えてください。

表1 中学校でのダンス授業内容（n=28）

内容	回答
現代的なリズムのダンス	14
創作ダンス	19
フォークダンス	9
なし	1

中学校でダンスの授業は「現代的なリズムのダンス」「創作ダンス」「フォークダンス」に分類される³。平成20年（2008年）指導要領改訂により、中学校第1学年及び第2学年ではダンスは男女必修化となった。本アンケートに回答した学生は2013年に中学校を入学しているため、2012年の移行期間を終えた学年にあたる。2012年度に全国の公立中学校が3つのダンスからどのダンスを選択するか調べた結果、「現代的なリズムのダンス」66%、「創作ダンス」49%、「フォークダンス」39%と「現代的なリズムのダンス」を選択した学校が多い⁴が、本アンケートでは、創作ダンス19名で1位、現代的なリズムのダンス14名2位、フォークダンス9名で3位となっている。しかし、具体的な内容まで記述を見ると「創作ダンス」では「先生から指導してもらったリズムダンスをグループに分かれて発表した」という内容が多かった。指導要領に記載されているような「多様なテーマから表したいイメージをとらえ、動きに変化をつけて即興的に表現することや、変化の

あるひとまとまりの表現ができるようにすること」に沿った内容を受講してきたか疑問が残る。これはQ3 高等学校においても同様である。

「現代的なリズムのダンス」においては、自由記述から「DVDの真似をした」という記述があり、ダンス必修化に伴い様々な教材DVDが発売され、動画教材の模倣から学習してきたという実態が把握できる。

Q2 高等学校でダンスの授業を履修しましたか。

「はい」は20名、「いいえ」は8名であり、71%の学生が高等学校でもダンスの授業を履修していた⁵。

Q3 高等学校での授業で学習した内容を教えてください。

表2 高等学校でのダンス授業内容（n=20）

内容	回答
現代的なリズムのダンス	10
創作ダンス	15
フォークダンス	4

創作ダンス1位、現代的なリズムのダンス2位、フォークダンス3位と回答している。Q1で上記したことと同様である。

Q4 短期大学入学前に授業外でのダンス活動はしていましたか。

「はい」は15名、「いいえ」は13名であり、54%の学生が授業外でダンス活動を経験していた。次の設問で活動内容と歴を聞いている。

Q5 どのような活動を何年行っていましたか。

授業外でダンス活動を経験していた学生の具体的な内容と活動歴は以下のような内容であった。

³『中学校学習指導要領解説保健体育編』（2018）文部科学省 PP.116-131

⁴北島順子「ダンス必修化の意義を問うー武道必修化との関連に着目してー」（2015）大手前短期大学研究収録34巻 PP.1-13

⁵高等学校においては、高等学校指導要領（2009）において、第1学年は「B 器械運動」「C 陸上競技」「D 水泳」及び「G ダンス」から1領域を選択、第2学年以降はBからGの中から2領域以上を選択履修できるようにすると明示されている。

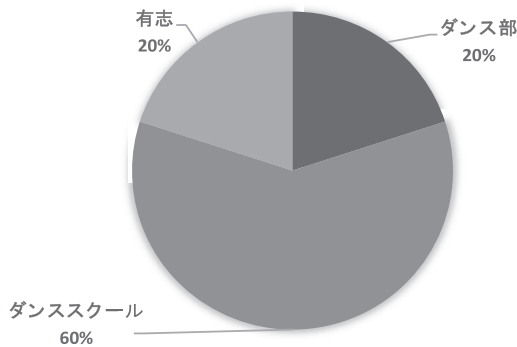


図1 授業外でのダンス活動内容 (n=15)

ダンススクールの具体的な内容は、「モダンバレエ」「K-POP」「HIP HOP」「チアダンス」「ロック」「ガールズ」「POP」「バレエ」「ジャズ」「新体操」と様々なジャンルのダンス活動を行なっている。ダンス部と併せてスクールでも習っている学生もいた。ダンスには様々なジャンルがあるが、自由記述においてジャンル毎に活動歴を記載していることからダンス経験者は、自身の行なっているジャンルを意識し活動していることが分かる。授業内容においてはジャンルでの自由記述は少なく中には「現代的なリズムのダンス」に「マイムマイム」といった「フォークダンス」を回答していた学生もあり、スクールで技術についての知識は得ているが、授業においてダンスの歴史的背景や知識などを定着してきていないことが窺える。

また、ダンス経験者は、3年未満2人(13%)、3～9年8人(53%)、10年以上5人(33%)であった。中村らの調査⁶から2002年～2012年までにストリート系ダンス部員の増加により2012年都立高校女子の部活部員数第1位であったことが報告されている。本授業ではダンス部5人、チアダンス部2人と部活以外にスクールで習っていた学生も多いことが分かった。

Q6 「体育実技B」を履修した理由を教えてください。

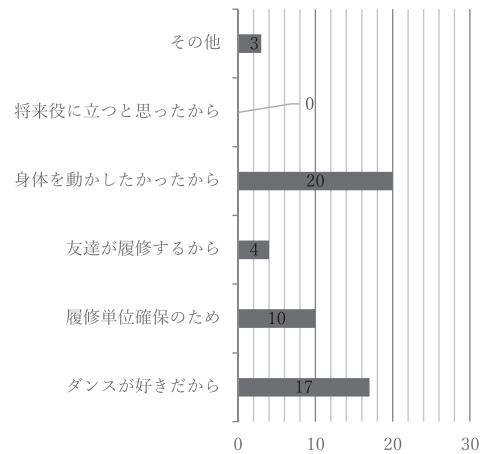


図2 「体育実技B」を履修した理由 (n=28)

「身体を動かしたかったから」が20名で一番多かった。続いて「ダンスが好きだから」が17名と多い。ダンスに対して意欲的な学生であることがわかる。しかし、「履修単位確保のため」10名「友達が履修するから」4名とダンスに対して積極的ではない面もある。

Q7 授業内容の満足度について教えてください。

各項目当てはまる内容を自由記述で回答してもらった。類似した回答毎を以下の表にまとめた。「あまり満足していない」9人、「満足していない」6人の回答があった。

表3 授業内容の満足度回答結果 (n=28)

項目	内容	回答
満足した点	楽しい、楽しく踊れるようになった、踊りを習うのが楽しかった、好きなことだから楽しい	9
	色々なジャンル(曲調含む)に触れた、いろんな踊りを知ることができた、やったことのないジャンルを踊れた	8
	分かるまで丁寧に教えてくれた、教え方が上手い、細かく教えてくれた	7

⁶ 2 同上

	ウォーミングアップが勉強になった、準備体操も念入りに行われていた	4
	ストレス発散、動けるからストレス発散できる、体を動かす機会が増えて良かった、体を動かせた	4
	他学科の友達ができ、友達と協力できた、ダンス歴がある子に教わるのができた	3
	先生が面白い、楽しい	2
	進み方が良かった	1
	短時間だったけれど3曲踊れるようになった	1
	自由にできる、自由なところ	3
まあまあ満足な点	出来ない所が少しでも出来たら、とても褒めてくれる	1
	楽しかった	1
	ストレッチが気持ち良かった	1
	グループに分かれてのダンス	1
	日本の曲もちょっと入れて欲しかった	1
	レベルが高い、踊りが難しい	2
あまり満足していない点	進みが早かった、時間が欲しい、出来る人を重視して進める時についていけない	3
	体が硬く動けない	1
	あまり仲良くなれなかった（他学科と）	1
	ガールズやコピーダンスをやりたいかった	1
	出来る人と出来ない人での創作時のノリの差	1
	進みが早かった	2
満足していない点	うるさかった（一部）	1
	踊りが難しい、上手く踊れない	2
	自分の好きな曲	1

「満足した点」の自由記述としては、27人39記述回答があった。「楽しい」が9記述で1位となっている。これは、授業到達目標②軽いエクササイズやストレッチ、リズムダンスに苦手意識を持たずに楽しみ参加することができるに沿っている。

「まあまあ満足点」の自由記述としては、8人8記述の回答があった。「日本の曲も入れて欲しかった」については、3曲とも洋楽を使用しているため「ダンスのジャンル」といった課題があらわれた。

「あまり満足していない点」「満足していない点」の自由記述としては「ダンスの難易度」「進度」「ダンスのジャンル（曲を含む）」「人間関係」といった

課題があらわれた。

Q8 ダンスの授業でどのようなことをしたいか教えてください。

表4 ダンスの授業でしたいこと (n=28)

項目	内容	回答
先生から振り付けを習って踊りたい	踊りたい	1
	自分の知らないダンスができるから	1
	難しいやつ	1
	先生のキレイめなフリが好きで学びたい	1
	バラバラ	1
好きなアーティストの踊りを完全コピーしたい	K-POP、韓国系、Seventeen の oh my!, Black pink	10
	AAA の曲で踊りたい、AAA のダンスやりたい	2
	AKB46、乃木坂46	3
	ジャニーズ	3
	Ariana Grande	1
	ガールズ	1
	ドラマや映画で流行ったもの	1
	自分で振り付けを考えて踊りたい	3
自分で振り付けを考えて踊りたい	やりたくない	3
	出来るか分からないけれど、挑戦してみたい	1
	考えるのが楽しいから	1
	自分たちでつくりたい	1
自分で振り付けを考えて踊りたい	自分の得意なジャンルを紹介したいから	1

「好きなアーティストの踊りを完全コピーしたい」が23名で1位であった。続いて「先生から振り付けを習って踊りたい」9名、「自分で振り付けを考えて踊りたい」5名という回答であった。89%の学生が「好きなアーティストの踊りを完全コピーしたい」と回答している。中でも「K-POP」は10名が記述しており他と比べても人気が高いことが分かる。また本授業では、学生が回答したアーティストの曲は1曲も扱っていない。

「自分で振り付けを考えて踊りたい」に対しては、「やりたくない」というネガティブな記述も回答された。自分自身で考えることに対して興味関心が薄いだけではなく、苦手意識を抱いている学生がいたということが分かる。

Q9 ダンスの授業を通じての感想を教えてください。

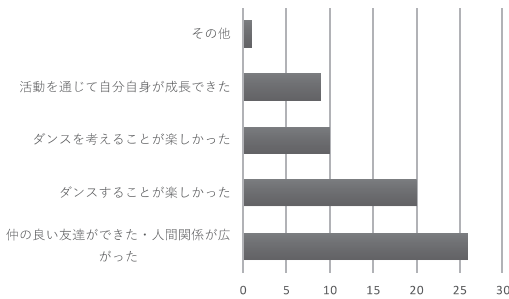


図3 「体育実技B」の感想 (n=28)

「仲の良い友達ができ・人間関係が広がった」が26名と1位であった。自由記述で「教え合いをしていたら、他学科の子とも仲良くなった」「ダンスをやったことのある人がいっぱいいて共有できたのがよかった」という記述があり、授業内で4人～6人程度の小グループに分かれて練習をし、互いに発表しあう形式をとっている。一緒に踊るだけではなく、教え合い練習する交流を通し、仲良くなっていることが分かる。

続いて「ダンスすることが楽しかった」が20名と2位であった。自由記述で「ジャンルがバラバラで色々な楽しさがかった」「体をたくさん動かせた」「出来ないステップが出るようになった」という記述がみられた。授業外でのダンス経験がない学生で「出来ない時も面白く楽しく出来た」という記述があり、今後もこのような学生を増やしていく必要性があるだろう。

「ダンスを考えることが楽しかった」は10名であった。自由記述で「アイデアを出すので自分の経験が出せてよかった」という記述がある一方で「難しかった」「楽しくはない」といった記述もあり、ダンスを踊ることは楽しさを感じられるが考えることに対しては苦手意識が強いことが分かった。

「活動を通じて自分自身が成長できた」は9名であった。自由記述で「自分自身の不得意が見つけられた」「協調性が強くなった」「コミュニケーション力、ダンスを教える力が少し上がった」という回答があった。これらは、自ら課題を発見をし行動する力や意見が違う際に柔軟性を持ちながら発信してい

く力などの「社会人基礎力」を養うといった成果に繋がっている。

Q10WebClass で見本振り付け動画を見たものに○をつけてください。

2017年から ICT 教材として、1 曲（1 分30秒程度）の振り付けを指導し終えた後、筆者本人が見本として踊っている動画を本学の WebClass に共有している。

「GOOD TIME」14人（50%）、「STAY WITH ME」11人（39%）、「SING SING SING」9人（32%）が視聴したと回答している。

自主練習のために作成したが、2018年の授業では、後半で作品創作のグループワークの際に、学生の携帯から見本動画を見て練習することを許可し活用した。

Q11WebClass で動画が見られてよかったですか。

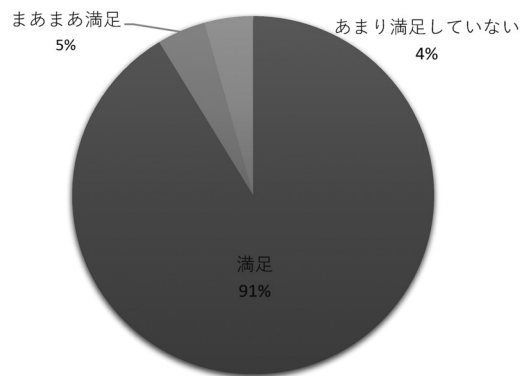


図4 WebClass (ICT 教材)満足度 (n=28)

「満足している」が91%であった。2018年よりグループワークの際にも活用し復習がスムーズになった手応えはあったが、前期に開講した授業ではアンケートは取らなかったため、学生の満足度は測れていなかった。自由記述からも「家で練習出来る」「わかりやすい」「授業内だけでは、ついていけなかったけれど、動画がのせてあるから後からも確認出来る」という肯定的な記述であった。

しかし「あまり満足していない」の自由記述において「すぐ止まって見られなかった」という記述があり、今後の課題である。

Q12今後もダンスを踊ってみたいと思いますか。一番近いものを教えてください。

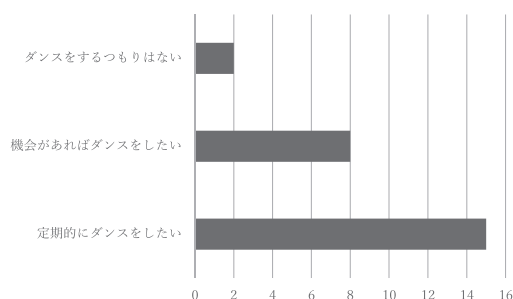


図5 今後もダンスを踊りたいか (n=25)

「定期的にダンスをしたい」が15名、「機会があればダンスをしたい」が8名、「ダンスをするつもりはない」が2名であった。また、本設問では複数回答した学生のものは無効として扱った。

Q13Q12で「定期的にダンスをしたい」「機会があればダンスをしたい」を選択した人のみ回答してください。具体的にどのようなダンスをしたいでしょうか。

表5 「定期的にダンスがしたい」「機会があればダンスをしたい」回答結果 (n=23)

内容	回答
完コピ、好きなアーティストのダンス	7
HIPHOP	7
K-POP	3
ガールズ	2
ジャズ	2
セクシーなダンス	2
バレエ系の優雅なダンス	1
ソーシャルダンス	1
創作ダンス	1
パラパラ	1

自主的にダンスに取り組む続けたいと考える人が多いのは、上記してきたように本授業の履修形態や履修学生の特性を考えても当然だろう。具体的には「完コピ」「HIPHOP」が7名で同率1位であった。

Q14Q12で「ダンスをするつもりはない」を選択した人のみ回答してください。理由を教えてください。

「踊るのが苦手」1名、「難しい」1名という回答であった。両者とも授業外でのダンス経験はなく、

本授業の履修理由も「履修単位確保のため」「友達が履修するから」「身体を動かしたかったから」を選択していた。このような特性の学生に対して、継続してダンスを行なっていきたいという意欲を抱かせる授業を行うことが今後の課題だろう。

Q15本授業で学んだことを教えてください。

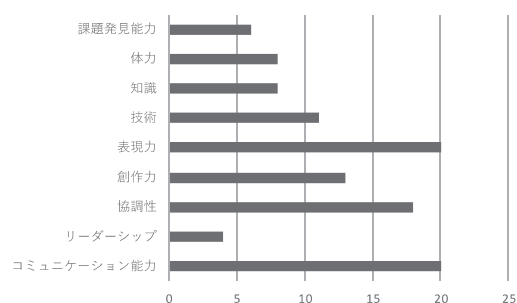


図6 「本授業で学んだこと」 (n=28)

「コミュニケーション能力」「表現力」が20名で同率1位であった。続いて「協調性」が18名、「創造力」13名、「技術」11名、「知識」「体力」8名、「課題発見力」6名、「リーダーシップ」4名の回答が得られた。

Q16本授業で学んだことで今後どのようにいかしていきたいか教えてください。

表6 学修した力を今後どのようにいかしていくか (n=28)

社会人基礎力	回答
前に踏み出す力	
考え抜く力	何か新しい発見をみつける
チームで働く力	コミュニケーション能力をいかす 自分の作った考えを出してみたい 協力してダンスを完成させたりする点でチームワークやコミュニケーション力を養えた これからいろんな人や就活で出会う人と活かしていきたい 表現力 皆の意見をしっかりととりいれられる人になりたい 協調性

回答は、26記述あった。その中で社会人基礎力「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」に当てはまる内容をまとめた。「チームで働く力」が7、「考え抜く力」が1で、中でも「コミュニケーション」6名、「表現力」3名が記述しており、身についた力の中でもこの2つは社会に出ていかしていくことができると学生が認識していることがわかった。

Q17本授業で改善してほしいことがあれば教えてください。

自由記述では、「完コピしたい」「寒い」「ガールズも入れて欲しい」「ダンス苦手な人の対応」のみであった。今後も継続していきたいダンスとして回答があった「完コピ」という言葉がここでも見られ、今後の課題を検討する上でのキーになると考える。

4. 今後の課題

教材の選択としては、飯田ら（2015）が大学生に対してストリートダンスを教材とした授業研究として、大学生のダンスへの親しみ・爽快感、社会性、創造性、運動技能、音楽の認知に関する自己評価が向上したという報告をしている⁷。親しみを持つことは意欲を喚起する上で重要である。本アンケートからは「K-POP」の曲でストリートダンスの中でも「HIPHOP」「Girls」といったジャンルを踊りたいということが推察できる。これについては2019年授業に向けて1曲教材を増やしたい。

本アンケートのQ7、Q8、Q13、Q17自由記述において共通して「完コピ・完全コピー」という言葉が回答された。現在、ダンスを完全コピーすることが身近になっている。これは、登美丘高等学校ダンス部による『バブリーダンス』やDA PUMPによる『U.S.A』といったダンスを完全コピーすることが流行したことや、アイドルグループの完全コピーをするダンスサークルが作られていることから「完コピ」が身近なことが分かる。そして中学校及び高等学校におけるダンス授業の内容の中で「DVDを真似た」という回答が1件ずつあった。

「模倣」はダンスの基礎であり、明治期においては「歌唱遊戯」として教師が振り付けた既成作品を習得型授業が行われていた。しかし、戦後の学習指導要領（1947）から、生徒の自主創造的な創作型学習に重点が置かれるようになってきた。これらの変遷も踏まえダンスを授業で行う意義として「模倣」だけで完結してしまう授業ではいけない。

そこで、現代の短期大学生が望む「完全コピー」を「模倣」と置き換え、エクササイズとして初回授業時に1曲（32エイト程度）を「完全コピー」リズムに乗り楽しく動くことを体験させる「導入」として使用することを検討したい。

Q9、Q15、Q16の自由記述を見ていくと共通して「コミュニケーション能力」というワードが出てくる。特にQ16では経済産業省が提唱している「社会人基礎力」に当てはめて本授業で学生自身が修得したと感じている力をまとめた。すると、1記述を除いて「チームで働く力」（発信力、傾聴力、柔軟性、情報把握力、規律性、ストレスコントロール力）に当たる自由記述であった。本授業の到達目標としては、ズレはないと言える。しかし、創作活動を通じて「考え抜く力」（計画力、想像力）、ダンスを教え合う活動を通じて「前に踏み出す力」（主体性、働きかける力、実行力）「考え抜く力」（課題発見力）を向上させていきたいと考えていた。つまり、本授業における筆者のダンスにおける意義に対して成果が不足していることが明らかになった。

アンケートから、ダンス必修化に伴い、ダンスに対して免疫はあるが、「創作」における「即興・表現力」については不十分のまま短期大学に入学してきている実態を把握できた。そこで「創作」を強化する授業展開を計画していくことにより、教養科目のダンス授業には、社会に出てから必要とされる「前に踏み出す力」「考え抜く力」を養う可能性を秘めていると考える。学生自身に自覚させる方法としては、ルーブリックの活用が有効ではないだろうか。相馬（2018）がルーブリックを用いた授業により、授業者と受講学生間で到達目標及び評価基準の共有

⁷ 飯田祥明、三浦哲都「リズムダンス」に受講が心身の自己評価に及ぼす影響：上智大学でのアンケート調査（2015）上智大学体育（48）PP.15-24

により、授業内容の理解に繋がるという報告がある⁸。短期大学においては、2年間という短い期間で就職へと繋げることが必要となるため、社会人基礎力と照らし合わせ15回の授業におけるルーブリックを作成する必要があるだろう。ルーブリックを活用することで学生との到達目標のズレを減らす効果も期待できるため、授業内容を改善方法の一つとして視野に入りたい。

今回、ダンス必修化後の教育を受けた短期大学生がダンスの授業に対して望む内容が明らかになったが、ダンス授業を選択している学生のみでの回答になってしまった。さらに今後の課題としては、ダンスの授業を履修しなかった学生群にも同様なアンケートを実施することでより明確化させ他の保育・教員養成学校と比較検討していくことである。

引用・参考文献

- ・『中学校学習指導要領解説保健体育編』（2008）文部科学省 PP.116-131
- ・『高等学校学習指導要領解説保健体育編』（2009）文部科学省 PP.81-92
- ・飯田祥明、三浦哲都「「リズムダンス」に受講が心身の自己評価に及ぼす影響：上智大学でのアンケート調査」（2015）上智大学体育（48）PP.15-24
- ・伊藤照美（2017）「保育士を目指す学生のリズムダンスへの脅威関心愛知学院大学・短期大学紀要（52）PP.119-124
- ・北島順子「ダンス必修化の意義を問うー武道必修化との関連に着目してー」（2015）大手前短期大学研究収録（34）PP.1-13
- ・相馬秀美「教員養成系大学における現代的なリズムのダンスの指導法授業に関する検討ールーブリックの有用性の検討を通してー」（2018）日本女子体育連盟学術研究（34）PP.39-51
- ・中村恭子「日本のダンス教育の変遷と中学校における男女必修化の課題」（2013）スポーツ社会学研究21（1）PP.37-51
- ・中村なおみ、内田匡輔、宮本乙女、中村恭子、布施典子、坂上香苗「中学・高等学校におけるダンス教育推進に向けての調査及び取り組みについての研究」（2014）笹川スポーツ政策研究3（1）PP.230-239
- ・宮下恭子「保育専攻学生の表現・ダンスに対する意識とその学習における自己評価」（2005）東京成徳短期大学紀要（38）PP.67-79
- ・宮下恭子「学生のダンスや身体表現についての意識や自己評価に関する研究」（2011）東京成徳短期大学紀要（44）PP.1-16
- ・宮本乙女「小グループで指導法を学び合う活動を取り入れた「ダンス指導法授業」の成果」日本女子体育大学紀要（48）PP.111-122
- ・経済産業省「人生100年時代の社会人基礎力」説明資料
[<http://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/index.html#MainContentsArea>]（最終検索日：2019年1月8日）

⁸相馬秀美「教員養成系大学における現代的なリズムのダンスの指導法授業に関する検討ールーブリックの有用性の検討を通してー」（2018）日本女子体育連盟学術研究（34）PP.39-51